

～1977年の有珠山山頂噴火から40年～

今から40年前の1977年8月7日、午前9時12分、有珠山は山頂から噴火しました。前兆地震からわずか32時間後のことでした。噴煙は1時間ほどで旅客機の飛行高度である上空12,000mに達しました。その後、有珠山は1週間で10数回も噴火を繰り返しました。噴火で降った火山灰の量は札幌ドーム一杯に火山灰を詰めたとしてドーム約53個分の量！降り積もった火山灰は、雨でドロドロになり、樹木や作物を枯らしました。また、海では火山灰の影響でホタテが大量に死んでしまうなど、周辺一帯に大きな被害を与えました。雨の影響で、本当は遠くへ運ばれるはずの火山灰が山の近くに降り積もり、山頂では約1m、山麓でも30～50cmの厚さになりました。数cm積もるだけで交通機関は麻痺し、地域の人々は家や道路の他、農作物の除灰作業に追われました。そして翌年の10月24日、雨で流された火山灰が土石流となり3名の犠牲者を出しました。

こうした過去の噴火の経験と科学的なデータから、1995年に有珠山防災マップが作成され、2000年噴火の際にはこの防災マップに基づいた避難が行われ、一人の犠牲者も出さずに済みました。有珠山は数十年に一度噴火を繰り返してきましたが、次の噴火の正確な予知は不可能とされています。有珠山の特徴をよく理解するとともに、日頃から家族との集合場所や避難場所の確認をしておきましょう。



1977年8月7日、旧洞爺村役場庁舎前（現洞爺湖芸術館）から撮影した噴煙
『有珠山噴火農地災害復旧写真集』より抜粋



ユネスコ世界ジオパークに 8地域が新規認定！

2017年5月5日、パリで開催されたユネスコ世界ジオパークネットワーク会議で、新たに8つの地域がユネスコ世界ジオパークに認定されました。これでユネスコ世界ジオパークは、洞爺湖有珠山ジオパークを含め世界35カ国127地域になりました。

～ 新しく認定された地域 ～

- ☆アルシャン（中国）～内モンゴル自治区に位置。250万年以上前の火山があり、豊富な自然と火山地形が特徴。
- ☆ケルシー（フランス）～フランス南西部に位置。5,200万年前の化石が保存されている。
- ☆チョンソン（韓国）～韓国東部に位置。火山から流れたマグマが球状となった美しい韓国花岩が見られる。
- ☆イダルゴ鉱山（メキシコ）～メキシコ中央部の東に位置。高さ40mを越える世界で最も高い玄武岩の岩柱が特徴。
- ☆コクトカイ（中国）～新疆ウイグル自治区に位置。壮大な花崗岩の地形で「中国のヨセミテ」と呼ばれることも。
- ☆ラスロラス（スペイン）～カスティーリャ州の北に位置。壮大な渓谷によって区切られた風景が特徴的。
- ☆ミシュテカ高地（メキシコ）～メキシコ中部の山岳地帯に位置。ジオパーク名はミシュテカ文明に由来。
- ☆グেশム島（イラン）～イラン南岸に位置するイルカ型の島。露出した地層と美しい砂漠が特徴。



コクトカイ ユネスコ世界ジオパーク（中国）

巨大な地震が作り出した断層の上にある、イリシティ峡谷やココスリ湖の自然を楽しむ景勝地。遊牧民・カザフ民族の伝統文化や、かつての露天掘り鉱山の跡も見どころで、年間150万人が訪れている。